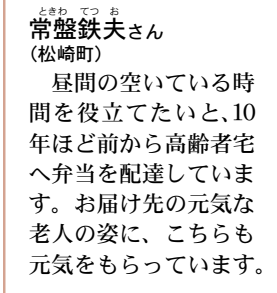


ボランティア

わたしたちも
やっています。



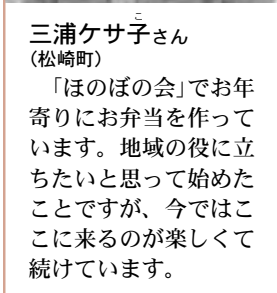
工藤さのみさん
(新穀町)
「いろり火の会」で、観光客に無料で昔話を披露しています。昔話が好きで集まった仲間ですが、お客さんの喜ぶ姿が何よりうれしくて続けられています。



常盤鉄夫さん
(松崎町)
昼間の空いている時間を役立てたいと、10年ほど前から高齢者宅へ弁当を配達しています。お届け先の元気な老人の姿に、こちらも元気をもらっています。



金澤麗子さん
(上組町)
遠野コーラス「桑の実」で、老人施設などで歌を披露しています。一緒に口ずさんだり、涙を流して喜んでくれたりする人もいて、本当にうれしいです。



三浦ケサ子さん
(松崎町)
「ほのぼの会」でお年寄りにお弁当を作っています。地域の役に立ちたいと思って始めたことですが、今ではここに来るのが楽しくて続いています。



佐々木凌光君
(青笹小6年)
児童会で毎年、書き損じはがきを集めてユネスコ協会に寄贈しています。ほんの小さな取り組みですが、もっと貢献できるよう、今年も頑張りたいです。



宮澤美奈子さん(松崎町)
杏佳ちゃん、来実香ちゃん
わたしはメーク担当で、子どもたちは役者でファンタジーに参加しました。大きな感動を得たこの経験は、普段の仕事や生活にも役立っています。



小田瑞希さん
(情報ビジネス校3年)
老宅委員会に所属して、一人暮らしの高齢者の皆さんと交流しています。いろんな話を聞かせてもらったりして、とても楽しいひとときです。



菊池美香さん(青笹町)、
佐々木真美さん(青笹町)
ふるさと発見探偵団のボランティアサポーターをしています。子どもたちと遊ぶことや、サポーター同士の交流が楽しくて続いています。



佐々木浩章さん
(早瀬町)
市内の子どもたちに空手道を教えています。週に2回の練習は、子どもたちへの指導だけでなく、自分自身の鍛錬にもつながっています。



本を通じて 育てる心

◎図書ボランティア「やまゆり」

読書を通じて、心豊かに成長してほしい。
親や教師、地域の思いで始まった
図書ボランティア「やまゆり」の活動。
楽しい本の世界はさらに広がっています。



子どもたちに笑顔で語り掛ける菅原美佳さん(左)と下村安由美さん(右)

「この本を貸してください。」
宮守小(中居澄江校長、児童百二人)の放課後の図書室は、いつも子どもたちの元気な声であふれています。

「後で感想を聞かせてね」と子どもたちに笑顔で本を差し出すのは、図書ボランティア「やまゆり」(吉田満世会長、会員十五人)の皆さん。保護者や教職員のOBなど、経歴も年代もさまざまな会員が集まっています。「やまゆり」は、「子どもたちが本と親しむきっかけづくりをしよう」と、平成十七年六月に活動を開始。放課後の図書室での貸し出しなどを日替わりで担当します。本の修理をしたり、手作りの掲示物で館内の装飾を手掛けたりするなど、楽しい図書室づくりに取り組んでいます。会員が持ち寄った本が並ぶ「やまゆり文庫」のコーナーは、二百六冊を数えるまでになりました。長女の入学をきっかけに、活動に参加した下村安由美さんは「学校や子どもたちの普段の様子を見ることができます。活動を通して自分の視野も広がっています」と話します。月三回、朝学習の時間には会員らが各教室に分かれ、読み聞かせをしています。「今日はどんなお話かな」と、子どもたちはわくわくしてこの日を待っています。読み聞かせをしてもらった本を、今度は自分で読んでみたいと図書室に借りに来る子どももしばしば。

こうした活動が実を結び、同小では昨年、全児童が図書室を利用しました。さらに全員が二十冊以上の本を読み、多い子では百五十三冊の本を読みました。図書室に来る子どもたちはみんな「読書が大好き」と口をそろえます。会の結成当初から活動を続けている菅原美佳さんは「わたし自身、読書が好きだから続けてこられたのだと思います。新しい本ともたくさん出合うことができ、楽しみながら活動しています」と笑顔を見せます。ビデオやテレビゲームなどの台頭で、活字離れが進む現代の子どもたち。想像力豊かな子どもに育ってほしいと、会員の皆さんは今日も活動を続けています。

子どもたちに聞きました



照井龍之介くん
(宮守小2年)

自動車や電車の図鑑が好きだけど、今日はこの本を借りました。この前、少しだけ見て、読みたいと思っていました。読書は大好きです。去年は78冊借りて読んだので、今年は200冊読むことが目標です。



上関瑞華ちゃん
(宮守小2年)

おもしろそうだったので、今日はこの本を借りました。読書は大好きです。家ではいつも、勉強が終わった後に読んでいます。図書室にいるお母さんたちは、いつも優しくして、本を借りに行くのが楽しみになりました。



【MEMO】
◎図書ボランティア「やまゆり」
会員/15人
代表・連絡先/
吉田満世さん(宮守小学校 ☎2135)

取材を終えて

ボランティアに携わる皆さん取材しました。決まって返ってきたのは、「自分が好きなことをやっているだけ。苦勞はしていません」という言葉でした。

活動している皆さんの表情はいつも明るく、充実した笑顔に満ちあふれています。そこには、誰かの役に立とうとボランティアをする姿ではなく、自分自身が楽しんで活動している姿がありました。さらに、「素直に喜んでもらえるのがうれしい」、「今日も元気な姿を見てほっとする」と、活動している人自身が、その受け手からたくさん力をもらって活動している姿がありました。

誰かに手を差し伸べ、もらった「おかげさま」は、自分自身の力になる「おたがいさま」。

ボランティアと聞くと「自分には一体何ができるのだろう」と難しく考え、なかなかその一歩を踏み出せない人も多いためです。自分の趣味や特技、普段の生活の中で今すぐにもできる、ちょっとしたボランティアはたくさんあります。

あなたも「おたがいさま」の気持ちで、ボランティアに取り組んでみませんか。きっと、今まで見えなかった新しい世界が開けるはずですよ。
【特集】ボランティア
おかげさまとおたがいさま 終わり